

# 知る

佐世保は  
エコツーリズムの先進地

環境省は、平成16年、エコツーリズムに先進的に取り組む全国13カ所をモデル地区に指定しました。

指定された地区は、世界自然遺産に登録された白神山地区(青森県・秋田県)や南紀・熊野地区(三重県・和歌山県)をはじめ、知床地区(北海道)、六甲地区(兵庫県)など、全国でも名の知られたところばかりで、九州では、屋久島地区(鹿児島県)と佐世保地区の2カ所だけです。

佐世保が指定されたのは、西海国立公園「九十九島」の豊かな海を生かした自然体験や、環境保全の取り組みに力を入れているハウステンボスなどが評価されたからです。

また、これ以外にも、歴史文化遺産などさまざまな資源が数多く存在し、佐世保はエコツーリズムの資源となる魅力があふれる地域なのです。

では、皆さんは、佐世保の魅力をどれだけ知っていますか？

まず、わたしたちの住む地域のことを知って、好きになることからエコツーリズムは始まります。

エコツーリズムに取り組むと、どうなるの？

取り組みを進めることで、次の3つの効果が期待されています。

①環境保全  
エコツアーなどを通じて、自然環境の成り立ちや歴史文化が持つ深い意味などを学び、資源の価値を理解することによって、市民や来訪者の環境への保全意識が高まり、活動につながります。

②観光振興  
これまでの「見る観光」に加え、「体験する観光」という旅行者の新しいニーズに対応することで、観光需要の増加が期待できます。

③地域振興  
エコツアーガイドなどの雇用の創出や経済波及効果に加え、市民が地域に誇りを持つことで地域社会が活性化され、地域振興につながります。

# 伝える

佐世保のまちの魅力を伝えることができる？

まちの魅力をきちんと伝えることができれば、佐世保を訪れたことがない人は「行ってみよう」という気持ちになるかもしれませんし、実際に訪れてみて良い所だと思えば、また訪れたいくなるでしょう。

そのためには、佐世保の自然や歴史文化などその魅力を分かりやすく、適切に解説できる案内人(ガイド)の存在が欠かせません。

そこで、専門的な知識を有し職業とする「プロフェッショナルガイド」、市民の皆さんがボランティアとして活動する「アマチュアガイド」、地域での取り組みの中心的な役割を担う「地域コーディネーター」など、人材を育成する必要があります。

また、佐世保に点在するさまざまな資源を保全しながら活用していくためには、調査や研究も必要です。本市は、専門機関や大学などと連携して、調査・研究、また評価した情報を提供する機能の整備(「データベース化」)を進めています。

# 体験する

わたしたちにも  
何かできることはあるの？

佐世保の美しい自然環境を守るために、環境にやさしい生活を心掛けることも大切です。また、ボランティアとしてエコツアーのガイドなどに参加することもできますね。

エコツーリズムを定着させるためには、関係者だけでなく、佐世保の魅力を熱い思いで語ってくれる市民の皆さんの参加が欠かせません。

まずは、市民の皆さんに佐世保の魅力を体験し、実感してもらうことが大切です。楽しく体験できるツアーがすでにたくさん実施されています。皆さんも参加して、佐世保の魅力を心と体で感じてみませんか。

また、現在、「させばエコツーリズム」の理念を取り入れた魅力ある「させばエコツアー」を提供できるように、多方面で準備が進められています。皆さんもいろいろな企画に加わってみませんか。

●お尋ね  
市役所エコツーリズム推進室  
(0956・24・1111)



あまり知られていない市街地の歴史や文化などを見つねながらまちを歩きました



郷美谷池から八天岳方面を散策し、秋の草花や木々の紅葉を楽しみました



# させばエコツアー

昨年11月、「させばエコツーリズムフォーラム」が開催され、講演会のほか、モニターツアーが行われました。



烏帽子岳の山歩きをしながら自然と触れ合い、またドングリを拾って森づくりを体験しました



ハウステンボスで再生された自然を感じ、大村湾で渦潮やスナメリについて楽しく学びました



小型船に乗って九十九島をめぐり、カキの養殖いかだやカキ小屋にも立ち寄りしました



市亜熱帯動植物園でゾウなどのふんを材料にした紙を作ったり、飼育の裏話を聞きながら園内を散策したりしました



九十九島の無人島(金重島)に上陸して、自然観察や釣りを体験しました

エコツーリズムではいったいどのような体験ができるのか、もっと知りたくなりましたか？ 6~7ページでは、「ハウステンボスでの環境学習」と「牧場体験」のエコツアーを詳しくご紹介します。

6~7ページへ

